

令和 3 年度

事業報告書

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 31 日

公益財団法人ヒロシマ平和創造基金

事業報告 （令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）

設立の目的及び概況

【設立の目的】

ヒロシマ平和創造基金は、人類最初の原爆の惨禍を体験した広島市民の平和への願いと使命感を高め、さまざまな平和の推進及び国際交流、協力活動などの推進や支援を進める目的で2012（平成24）年2月に一般財団法人として設立されました。同年8月6日に国から公益財団法人の認定を受け、平和並びに国際交流活動に取り組んでいます。

【設立年月日】

2012年2月1日。同年8月6日公益財団法人へ移行。

【事業の概況】

ヒロシマ平和創造基金が取り組む事業は、「平和活動」と「国際交流活動」の二つのカテゴリーに分かれ、合わせて七つの推進・支援事業を行っています。

「平和活動」は計4事業。このうち、当基金が主催して取り組む推進事業は、ヒロシマの心を視覚的にアピールするポスターを通して国内外の自治体、団体、市民へ平和を訴える「ヒロシマ・アピールズポスター」、中国新聞社のヒロシマ平和メディアセンターと連携して行う「ヒロシマ情報の多言語発信」です。

平和活動を支援する事業として「ヒロシマピースグラント」「ひろしまフラワーフェスティバル」の二つがあります。市民の草の根的な活動や企画を支援し、平和に寄与できると判断した事業等に対して必要資金の一部を助成するもので、毎年厳正な審査を経て決定します。

もう一つの柱である「国際交流活動」は三つの事業から成ります。推進事業として「国際交流フェスティバル（ぺあせろべ）」があります。国際交流活動に携わる市民団体等と協力して、バザーや芸能、ゲームなどを通して広島在住の外国人と市民の交流を図っています。

支援事業は、「ヒロシマ・スカラシップ」「国際交流奨励賞」の二つがあります。音楽・美術・工芸等の芸術を学ぶ若者の奨励を目的とした「ヒロシマ・スカラシップ」は、公募によって申請のあった対象者に対して、奨学金を支給します。「国際交流奨励賞」は、国境を越えて地道な平和・交流活動を続ける市民団体や個人を表彰します。

「ヒロシマ情報の多言語発信」を除く6事業は、財団法人広島国際文化財団の取り組みを、公益財団法人認定を機に当基金が引き継ぎました。ヒロシマ情報の多言

語発信を含め、これからも同財団と連携しながら、平和につながる活動を積極的に推進、支援していきたいと考えています。

【実施事業】

2021 年度も前年に続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業を縮小、中止するなどの配慮が必要で、選考委員会は書面で行うなどの対応をした。実施または中止した事業は次の通り。

1. 第 44 回ひろしまフラワーフェスティバル関連事業（4～5 月）

平時は広島市の平和大通りなどで5月3～5日の3日間開催され約150～170万の人出で賑わう「ひろしまフラワーフェスティバル」(FF)だが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、広島市中区の平和記念公園と旧市民球場跡地を主会場として、ステージを無観客開催とするなど規模を縮小して行われ、当基金は花の塔およびフラワーキャンドルの設営、大書パフォーマンス、ステージプログラムのオンライン配信、公式サイトSNS発信強化の4事業を実施し、発信に努めた。

これらは、当基金理事3名（上野実智成理事、高橋渡理事、面出成志理事）、理事外2名（北吉孝行広島市文化財団理事長、菊池三春電通西日本広島支社長）の5名で構成する選考委員会が、FF実行委員会からの助成申請資料を基に審議し2021年3月2日に決議があったものとみなされた。その後書面理事会が行われ3月26日に理事全員の承認を得て決定した。

2. ヒロシマ情報の多言語発信（通年）

中国新聞ヒロシマ平和メディアセンターのウェブサイトを通じて、日本語、英語、フランス語、中国語、ロシア語の5言語でヒロシマ情報を発信してきた。このうち中国語、フランス語のページは広島大学の協力を得て当基金が追加し、専門スタッフによる翻訳料を負担していたが、コンテンツ選定委員会での協議で、2021年度は閲覧数の多い英語圏の読者向けに、2020年度に新聞協会賞を受賞した「ヒロシマの空白」に関する記事と画像を英訳して情報発信することとした。

2021年度、2022年度は英語訳に力を入れるが、多言語発信事業を広く市民に知ってもらい、市民参加の活動にすることを目的に2014年に創設した「平和サポーター寄付金制度」により、用途を示して引き続き寄付を受け付ける。コンテンツの充実とより多くの情報発信のため、この寄付金を活用する。

3. ヒロシマ ピースグラント 2021（6～7月）

1995 年の被爆 50 年を機に中国新聞社が寄託した基金をもとに広島国際文化財団が創設した助成制度で、被爆体験の継承と平和創造を目的とした地道な活動企画を支援する。2013 年度から当基金がこの事業を引き継ぎ、助成対象を公募している。27 回目（基金事業としては 9 回目）の 2021 年度は、26 団体、5 個人から申請があり、選考の結果、下記の 10 団体、2 個人に助成した。ただし 2022 年 3 月末時点で別の大口助成を受けるための辞退 1 件、事業中止のため辞退 1 件、開催時期延期の連絡および助成期間延期の申し出を 2 件受けるなど、平和活動に於いてもコロナウイルス感染拡大の影響があった。

【団体】

▽広島市立基町高等学校（広島市・横山尚司校長）▽爆心地鎮魂薪能実行委員会（広島市・山本一隆代表）▽「原爆ドームとヒロシマ」実行委員会（広島市・出山ひさ子代表）▽第 3 回広島市平和復興祭再現実行委員会（広島市・石丸紀興代表）▽「紙碑」・原爆手記総目録編纂委員（広島市・宇吹暁代表）▽HIP HOPE 実行委員会（広島市・藤原実和代表）▽Heiwa Library ヘイワ・ライブラリー（広島市・チェディリン マガスパー）▽ひろしまと世界を結ぶこども文庫（広島市・柴田幸子）▽被服支廠絵本化プロジェクト（広島市・稲田恵子）▽ヒロシマ「 」継ぐ展実行委員会（東京都武蔵野市・久保田涼子）

【個人】

▽宮本ゆきさん（米国イリノイ州）▽揚村周夏さん（広島市）

これらは、当基金理事 2 名（北村浩司理事、畑和行理事）、理事外 3 名（村上慎一郎広島市市民局国際平和推進部長、湯浅正恵広島市立大学国際学部教授、西田敏啓ひろしま国際センター専務理事）の 5 名で構成する選考委員会を 2021 年 6 月 15 日に開いて審議し、その後の書面理事会で 6 月 30 日に理事全員の承認を得て決定した。

4. ヒロシマ・アピールズポスター2021（7～8月）

世界平和を希求する「ヒロシマの心」を視覚で訴えるポスターとして 1983 年に制作開始。公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）と広島国際文化財団が共同で毎年 1 作品を制作。1989 年の 7 作目の後休止していたが、2005 年に再開し継続している。当基金は 2013 年度から事業に加わっている。

通算 25 作目に当たる当期は、東京都世田谷区のアートディレクター大貫卓也氏がデザインを担当、タイトルは「HIROSHIMA」。白と黒を基調にスノードームとその中に鳩を描き、戦争や核兵器の脅威から逃れられない世界の現状を表現した。それをガラス越しに見る視点を通じて多くの人が「傍観者」とであると問いかけている。ポスターに拡張現実（AR）技術を活用し、スマートフォンなど

をかざすと、スノードーム内の黒い粉が白い鳩を覆うように舞う動画を視聴できる仕組みを取り入れた。サイズはB 1判、総印刷数は2000枚。広島県や広島市に寄贈し広島市教育委員会へも配布。市内のバス停に掲示する取り組みも続けている。原爆資料館や広島市現代美術館などで販売も行った。

5. ヒロシマ・スカラシップ 2021 海外留学奨学金・中村音楽奨学金（10月）

広島県在住者または出身者で、海外や国内でさまざまな芸術の分野にチャレンジする若い芸術家たちに奨学金を支給する制度。助成対象は公募している。「海外留学奨学金」（音楽を除く芸術全般）と「中村音楽奨学金」（音楽分野に限定）の2部門がある。

海外留学奨学金＝公募（募集期間7～9月）により選出し、1人につき年間36万円を最大2年間支給する。分野（音楽を除く）は特に定めない。

2021年度は4人の応募があり、池上茉莉さん(18)＝イギリス・王立スコットランド音楽院留学、ミュージカルシアター専攻一の1人が選ばれた（年齢、在学学校名はいずれも決定時）。

中村音楽奨学金＝公募（募集期間7～9月）により選出し、1人につき年間36万円の奨学金を最大2年間支給する。対象は国内・海外を問わないが、音楽分野に限る。

2021年度は12人の応募があり、井伏晏佳さん(25)＝ドイツ・国立デトモルト音楽大学留学、ピアノ▽澁谷真帆さん(25)＝ドイツ・バーデンヴェルテンベルク州立カールスルーエ音楽大学留学、ピアノ▽黄純実(22)＝フランス・パリ地方音楽院留学、フルート▽間東優香(20)＝東京藝術大学邦楽科在学中、雅楽（龍笛）一の4人が選ばれた（年齢、在学学校名はいずれも決定時）。

これらは、当基金理事3名（江口淳常務理事、金尾雅彦理事、田谷行平理事）、理事外3名（三上貴教広島修道大学学長、上田みどり広島経済大学名誉教授、川野祐二エリザベト音楽大学学長）の6名で構成する選考委員会を2021年10月21日に開いて審議し、その後の書面理事会で11月4日に理事全員の承認を得て決定した。

6. 国際交流フェスティバル「ぺあせろべ」(10月)

広島在住の外国人家族や留学生らと市民が集い、食や遊びを通して互いの文化に触れ、国際交流を図る狙いで1984年から開催されている。会場は広島市中区基町の中央公園周辺。当基金は実行委員会の一員として運営に加わっている。

2021年は前年に続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。隣接地で行われる「ひろしまフードフェスティバル」も中止。

7. 国際交流奨励賞（2022 年 1 月）

平和創造の願いを実現するための国境を越えた地道な市民交流活動を奨励しようと、1998 年に広島国際文化財団が創設した表彰制度。ヒロシマ平和創造基金が公益財団法人に認定されたのを機に事業を引き継いだ。

2021 年度は、3 団体 4 個人の応募があり、次の 2 団体 1 個人を選んだ。

▽一般社団法人広島ベトナム平和友好協会（東広島市・河内昌彦代表）＝相互理解で多文化共生の地域づくりのための交流・支援事業、ベトナムの正月「テト」を祝う会などのイベントやコンサート開催、ベトナムを訪問しての交流事業などを継続（12 年）▽H i h u k u s h o ラジオ（広島市・土屋時子代表）＝被服支廠解体計画案に対し市民から全棟保存に向けた声が高まる中インターネットラジオ局を開局し被爆者や平和活動家など多彩なゲストの被服支廠への想いを国内外に配信し共に建物保存を考える活動を始めた（1 年）▽川野登美子さん（広島市）＝被爆体験「語り部」活動を継続しながら後世に原爆の惨劇の記憶を残すため英語併記版の書籍・マンガ「原爆の子の像」を制作し W E B サイトで公開するなど平和を訴える多岐にわたる活動（26 年）

コロナウイルス感染の拡大を受け、前年度に続き表彰式は中止とし、2 団体 1 個人には 3 月上旬に表彰状と奨励金を贈った。

これらは、当基金理事 2 名（植村泰夫理事、城雅治理事）、理事外 3 名（村上隆宣広島県地域政策局国際課長、向久保亨広島平和文化センター国際交流・協力担当部長、宮崎智三中国新聞社論説主幹）の 5 名で構成する選考委員会が審査票と講評を提出し事務局が集計・提示して審議し 2022 年 1 月 24 日に決議があったものとみなされた。その後書面理事会が行われ 2 月 7 日に理事全員の承認を得て決定した。

以上